

## 2. 生活史モデル —資源の回遊を想定する—

生活史は、生物が生まれて成長し、繁殖後に死に至る過程のことです。つまり生活史の理解は生まれてから死ぬまで、いつ、どこで、どのように生活しているかを理解することです。水産資源解析は、水産資源の状態を理解し、その管理の方策を提案する技術です。この技術を適切に使用するためには、生物としての水産資源を理解する必要があります。その第一歩として水産資源の生活史を理解することが必要です。しかし、水産資源は広い海に生息していますから、その全容を正確に把握することは困難です。そこで水産資源解析のためにはおおよそでも良いので、水産資源の全体像を描くこと、モデル化することが必要です。それに従って情報を収集し、得られた情報でまだモデルを修正することになります。

### 2.2 具体例

#### 2.2.1 生活史モデル

最近の例では、日本海のサワラの生活史モデルがあります（木所・戸嶋 2012）。漁獲の情報を時期的に、また地域的にまとめると、サワラ資源の日本海での回遊を把握することができます（図 2.2.1）。さらに、この報告ではサワラの生活史段階ごとの量的関係から漁獲量の予測が試みられています（図 2.2.2）。このような情報は資源管理や漁業管理に役立ちます。また、生活史モデルは今後の調査研究の立案にも役立ちます。

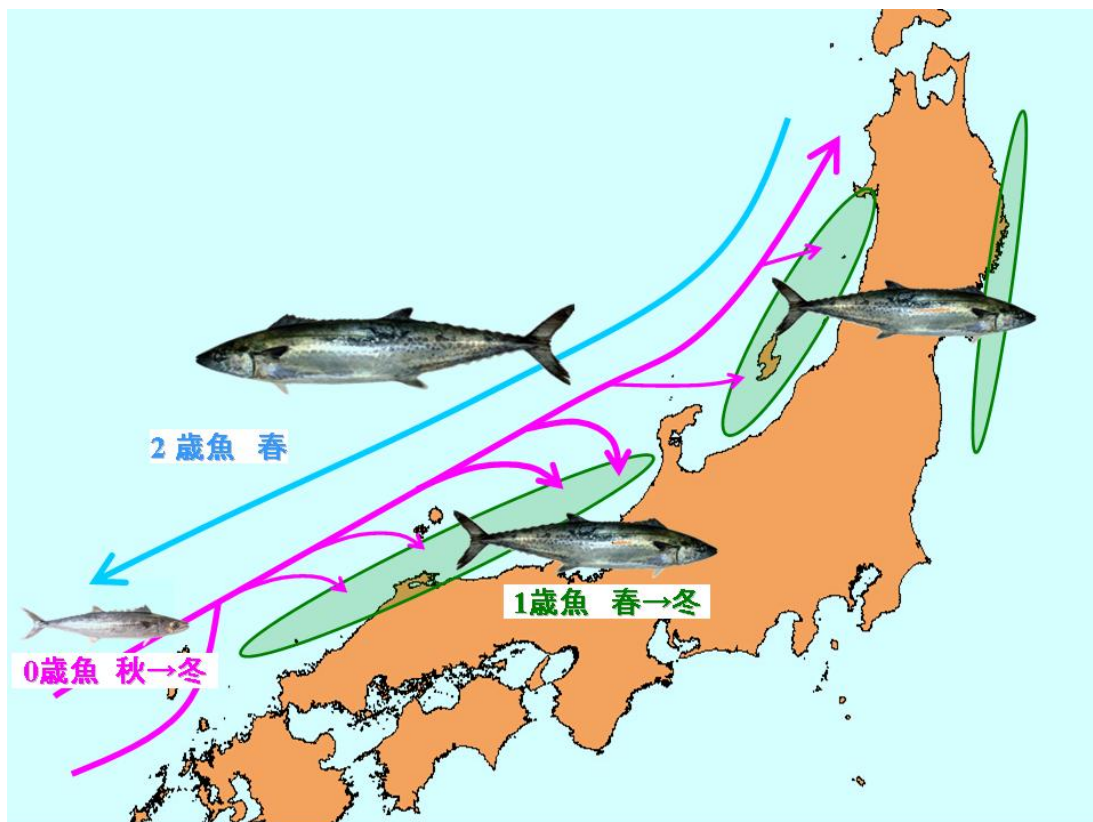
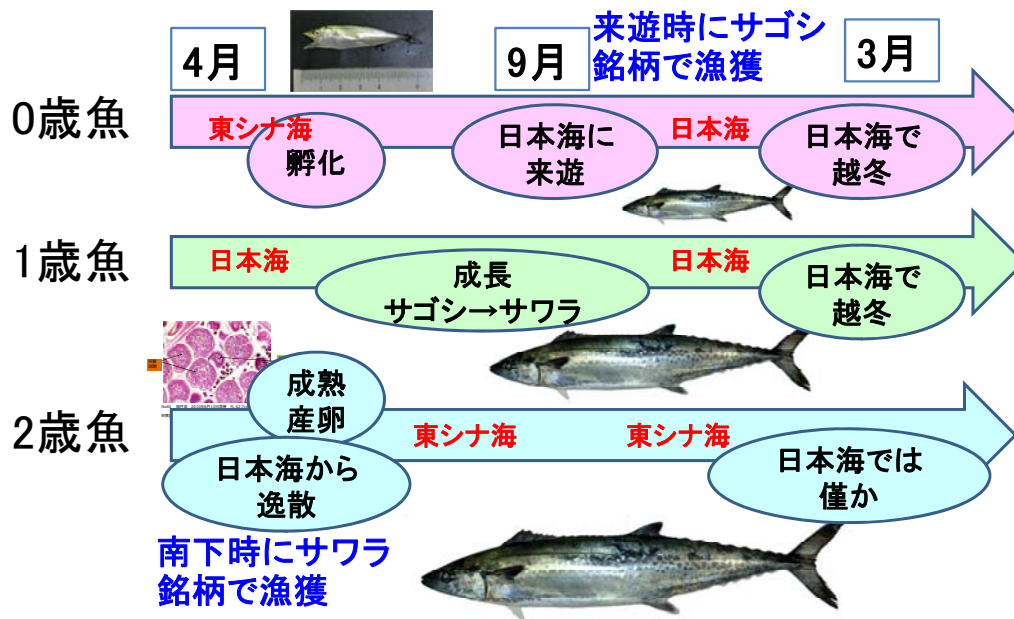


図 2. 2. 1 日本海におけるサワラの生活史の模式図 (木所・戸嶋 2012)

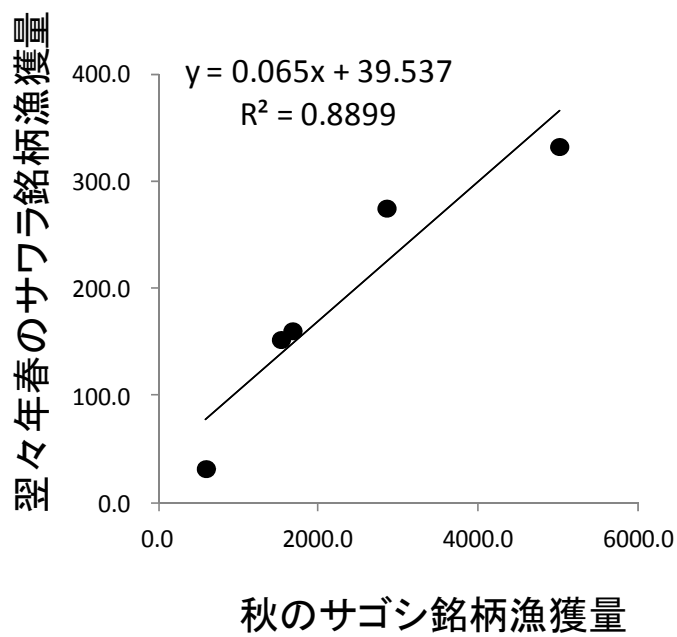
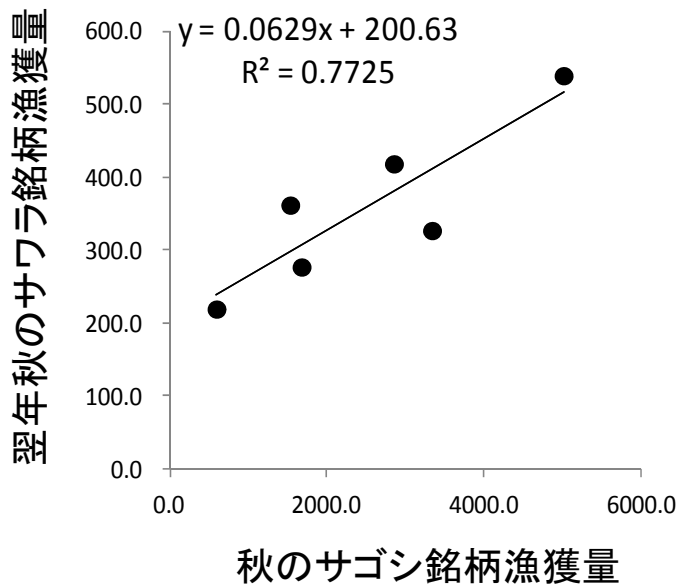


図 2. 2. 2 近年の石川県～京都府における秋のサゴシ銘柄漁獲量と翌年秋のサワラ銘柄漁獲量および翌々年春のサワラ銘柄漁獲量の関係（2004 年は除く）（木所・戸嶋 2012）

## 2.3 引用文献

- 2.3.1 木所英昭・戸嶋 孝. 2012. 日本海におけるサワラの漁業と生態. サワラ加工マニュアル. (浅野謙治・村田昌一・木所英昭・金庭正樹・藤原邦浩・佐藤翔太(編)). 独立行政法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所. 新潟. p. 37-41.  
<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/pub/sawara-manual.pdf>